

平成29年度

## 海洋教育パイオニアスクールプログラム活動報告書

活動名

『ふるさとを知り、見つめ、自己の将来・生き方を考えよう。』



大船渡市立 綾里中学校

## 目 次

1. 本活動を扱う教科・領域	1
2. 本活動の目的	1
3. 本活動の概要	1
4. 本単元で期待される成果	2
5. 本単元の指導計画	
(1) 単元構想	2
(2) 年間指導計画	3
(3) ストーリーマップ	4
6. 活動の指導案	
・例1	8
・例2	9
7. 活動報告	
NO.1 「郷土芸能活動」	1 1
NO.2 「地区奉仕活動・危険箇所確認」	1 2
NO.3 「クリーンフェスティバル・着衣水泳」	1 3
NO.4 「復興ワークショップ」	1 5
NO.5 「海の絵」	1 8
NO.6 「水産教室」	1 9
NO.7 「新巻鮭づくり」	2 0
NO.8 「魚を使つての調理実習」	2 1
8. 本活動のまとめ	
(1) 成果	2 2
(2) 課題	2 2
9. 指導資料等	巻末

# 活動名「ふるさとを知り、見つめ、自己の将来・生き方を考えよう。」

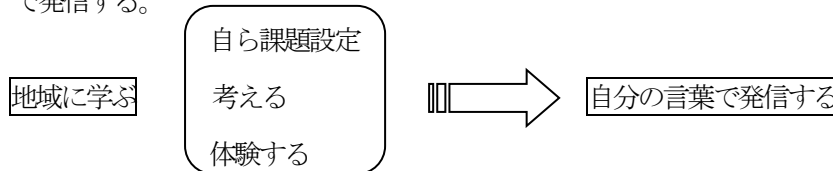
大船渡市立綾里中学校

## 1 本活動を扱う教科と領域

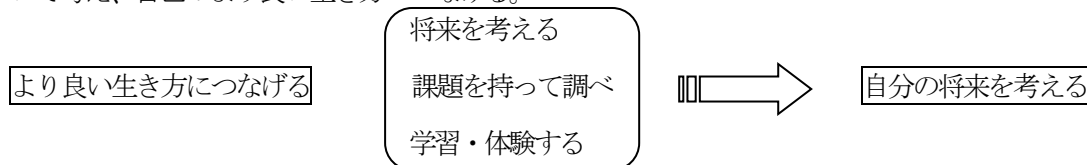
総合的な学習の時間、特別活動、学校行事、国語、社会、美術、家庭

## 2 本活動の目的

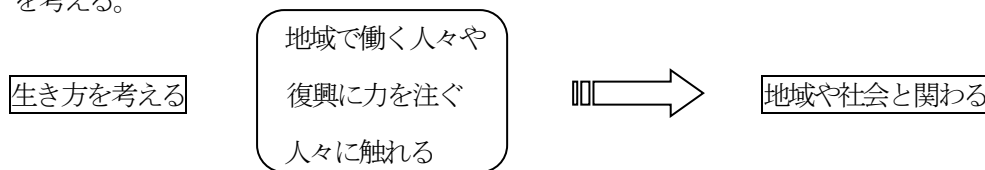
- ・地域の素晴らしさに学びながら、自ら課題を設定し、考え、体験活動等で学んだことを振り返り、自分の言葉で発信する。



- ・地域の主産業の水産業について、携わる人々に触れ、体験することを通して理解を深め、自らや地域の将来について考え、自己のより良い生き方へつなげる。

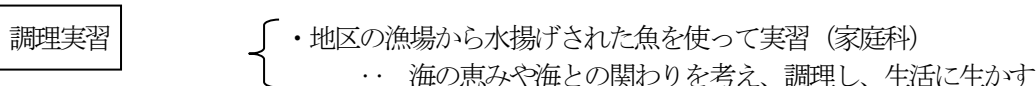
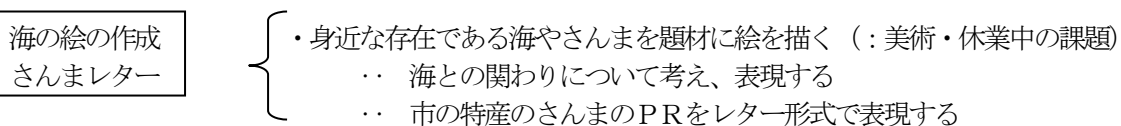
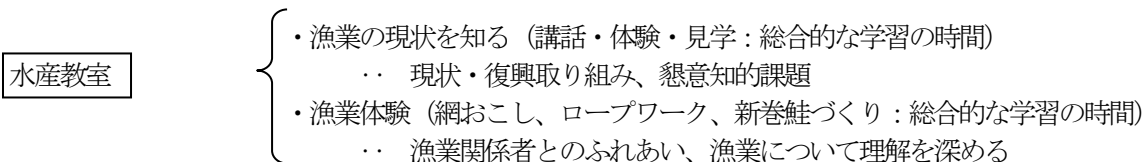


- ・郷土の復興に力を注ぐ人々から、生き方、考え方を学び、復興を目指す人々や社会との関わりを通して生き方を考える。



## 3 本活動の概要

- ・水産業については、水産教室（復興の取り組み、漁業の現状と課題、新巻づくり体験、網おこし体験等）を中心に体験・見学や講話を通して考える。
- ・地域の状況については、安全マップ作り（浸水地域の確認、津波との関わりの確認、危険箇所の確認、ゴミ拾い）や地域社会の中で行われてきた郷土芸能への取り組みを通してつかむ。
- ・海との関わりについては、海の絵の作成、地域で水揚げされた魚を使つての調理実習、地域を題材とした演劇への取り組みを通して、理解を深める。



安全マップ確認

- ・震災時の浸水区域、登下校時の危険箇所を知る（：総合的な学習の時間）
  - … 海との関わりを地域の生活と関わらせてつかむ

郷土学習

- ・郷土芸能への取り組み（総合的な学習の時間等）
  - … 海と郷土芸能の関わり、地域の人々の思いを知る
- ・地域を題材とした演劇（文化祭取組：総合的な学習の時間、学校行事）
  - … 地域について調べ、オリジナル脚本で地域に披露する
- ・郷土と海の関係を確認する（社会科、郷土芸能取り組み）

#### 4 本単元で期待される成果

- ・地域の状況や産業、郷土芸能についての学習や体験、安全マップ作りを通して、地域の実態や海との関わりについて学び、郷土への理解を深めることができる。
- ・漁業体験や復興への取り組みを体験して学習することにより、職業観の形成や生き方について考える機会になり、復興に関わる人材育成につなげることができる。
- ・物事を深く追求し、自分の考えを持つことができる。
- ・様々な体験を通して、自らの行動について判断する力が高まる。
- ・自分の考えをまとめ、相手意識を持って発信する力が高まる。

#### 5 本単元の指導計画

##### (1) 単元構想

時	学習課題	主な学習活動	指導上の留意点
①オリエンテーション（1～3年）			
1	・課題設定	・各学年毎、今年度の活動について知り、それぞれの取り組み課題を設定する。 ・郷土芸能の由来とこれまでの取り組みを学び、地域や海との関わりについて考える。	・1年間の見通しを持たせるよう学習内容を映像等で紹介する。 ・パワーポイントを使って分かりやすく指導する。
2 ～ 5	②剣舞の面を作成	・地域の指導者の指導を受け、剣舞の面に色をつける。（1年）	・絵の具の扱いや塗る上での注意事項の確認をさせる。
6 ～ 20	③郷土芸能への取り組み	・踊りの意味や地域との関わりを意識して、練習や発表を行う。運動会で保護者や地域住民に披露する。（夜間練習10日）（1～3年）	・上級生や地域の指導者の指導を生かして行う。
21	④地区奉仕作業、安全マップ確認	・海や地域のとの関わりを地域の通学路などのゴミ拾い作業を通して体験的につかむ。また、震災時の浸水区域や危険箇所を確認することで海との関わりを理解する。（1～3年）	・昨年度作成した安全マップを確認して行う。海岸近くの地区では海との近さを確認させる。
22 ～ 23	⑤復興ワークショップ1	・ふるさとの復興発展を支える人づくりを目的に、人生デザインゲームを通じて、自分の生き方や地域との関わりについて考える。（3年）	・常葉大学の先生及び学生のリードで行う。
24	⑥海の絵・さんまレターの作成	・海との関わりを意識して、海が関わる絵（1～3年の希望者と文化部）やさんまレター（1～3年）の作成に取り組む。	・海との関わりを意識させながら題材を考えさせる。
25 ～ 26	⑦B&Gクリーンフェスティバル、着衣水泳	・クリーン活動として、綾里漁港周辺のゴミ拾いを行う。その後、水辺の安全教室として着衣水泳を行う。（2年）	・三陸B&G海洋センター職員及び大船渡市消防本部による指導で行う。

27 ～ 28	⑧復興ワークショップ2	・ふるさとの復興発展を支える人づくりを目的に、地域の人へのインタビューを通じて、自分の生き方や地域との関わりについて考える。(3年)	・常葉大学の先生及び学生のリードで行う。
29 ～ 50	⑨地域を題材とした演劇への取り組み	・地域素材を取り入れた演劇に取り組み、地域の歴史やこれまでの人々の歩みについて考える。(1～2年)	・地域素材から演劇脚本を作る。
51 ～ 52	⑩海の学習	・綾里と海の関わりを知る。	・地理的・歴史的な観点から、綾里と海との関わりをつかませる。
53 ～ 58	⑪水産教室	・海との関わりや漁業の現状を知る。また、漁業の実際を体験する。(2年)	・綾里漁協の指導協力でを行うが、海との関わりや漁業の実際について、目的を持たせて関わらせる。
59 ～ 70	⑫職場体験学習	・職業の実際を知り、将来の生き方を考える。(3年)	・体験職場との事前連絡にも関わらせて行う。
71 ～ 74	⑬新巻鮭づくり	・海との関わり、海の利用を体験する。(1年)	・綾里漁協の協力指導で行うが、海との関わりや利用について、目的を持って関わらせる。
75 ～ 78	⑭調理実習	・地域の海から水揚げされた魚を利用して調理実習を行い、地域や海の利用について知る。(1～2年)	・綾里漁協の協力を得て購入した魚を使って実習を行う。
79	⑮まとめ	・綾里と海との関係、海の利用、地域から学んだことをもとに、これからの生き方や地域の在り方について自分なりにまとめる。	・作文やお礼状の形でまとめ、掲示したり関係先に送付することで情報発信を行う。

## (2) 年間指導計画

月	1 年	2 年	3 年
4	①総合 (1) オリエンテーション		
5	②総合 (4) 面作り 烏帽子づくり	③総合・学校行事 (15)、夜練習 (10日) 郷土芸能への取り組み 郷土芸能と生活の関わりを知る 踊りの習得と披露	
6	④総合 (1) 地域安全マップの確認、地区奉仕作業 (環境保全の意識化、浸水地域等の確認、地域の様子を知る)		
7			⑤総合 (2) 復興ワークショップ1 (地域の今後と海との関わりを考える)
8	⑥美術 (1)、夏休みの課題 海の絵の作成 (海との関わりを表現する) さんまレターの作成 (海との関わり、さんまのPRに協力する)		
		⑦総合 (1)、体育 (1) B&Gクリーンフェスティバル (環境保全の意識、海への親しみと自助意識を高める)	

9			⑧総合（２） 復興ワークショップ1（地域の今後と海との関わりを考える）
10	⑨総合・学校行事（２２） 文化祭取組（地域を題材にした演劇）		
	⑩社会（２） 海の学習（綾里と海の間わりを知る）		
11	⑬総合（４） 新巻鮭づくり（海との関わり、海の利用を体験する）	⑪総合（６） 水産教室（海との関わりや漁業の現状を知る、漁業の実際を体験する）	⑫総合（１２） 職場体験学習（職業の実際を知る、将来の生き方を考える）
	⑬家庭（４） 調理実習（地域で水揚げされた魚を利用、地域の漁業との関わりを知る）	⑬家庭（４） 調理実習（地域で水揚げされた魚を利用、地域の漁業との関わりを知る）	
1	⑮総合（１） まとめ		
2			
3			

### (3) ストーリーマップ

#### ①1学年「ふるさとを知り、見つけ、自己の将来・生き方を考えよう」

##### 【実践のねらい・目標】

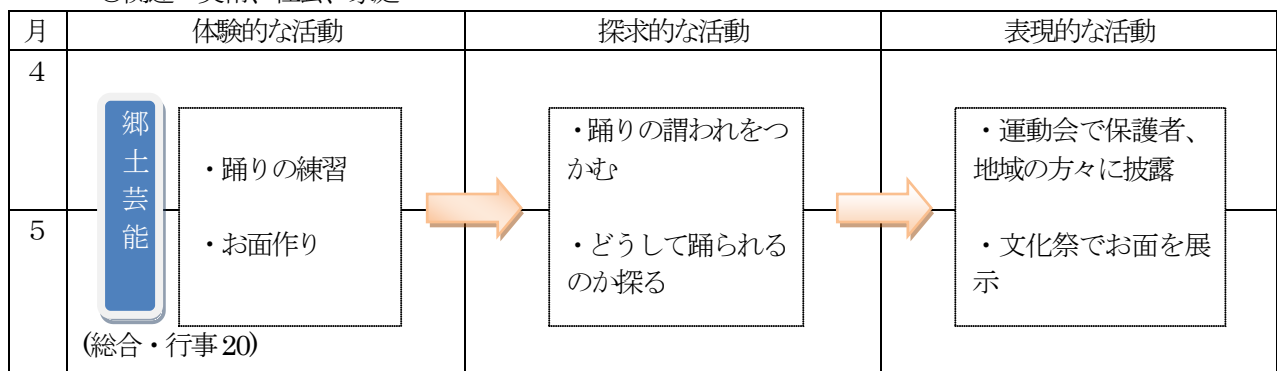
- ・豊かな三陸の海と深い関わりを持つ地域の素晴らしさを、体験活動等を通して学び、地域に生きる人々の生活や職業、郷土芸能について理解を深め、自らや地域の将来について考え、自己のより良い生き方について考えさせる。
- ・地域や水産業への理解を深めることができるように、郷土芸能活動、安全マップ確認、新巻鮭づくり、調理実習などの体験的活動を取り入れる。自分たちの地域を深く見つけ、体験する活動を通して、主体的に学び、生き方を考える力を育てる。

○時数 4月～1月 54時間（総合的な学習の時間・学校行事47、美術1、社会2、家庭4）

○関連 美術、社会、家庭

##### 【主な連携機関と内容】

- ・野形地区公民館：郷土芸能
- ・綾里漁業協同組合  
：新巻鮭づくり、調理実習



6	地区活動 (総合1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区のゴミ拾い</li> <li>・危険箇所確認</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゴミの量、地域の危険箇所を知る</li> <li>・津波浸水地域を確認</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全マップへの書き込み</li> </ul>
7				
8				海の絵 <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の自然や産業、産物を絵やレターに描く</li> </ul> (美術1・夏休み課題)
9	地域題材の演劇 (総合22)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の題材を扱いオリジナル脚本による演劇を行う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・題材や地域の様子を調べ、脚本に生かす</li> <li>・登場人物像や演技、音響や照明の工夫をする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・演出を工夫し、文化祭で発表する</li> </ul> (社会2)
10			海の学習 <ul style="list-style-type: none"> <li>・綾里と海の関わりを知る</li> </ul>	
11	新巻鮭づくり (総合4)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の漁場から水揚げされた鮭を使って新巻を作る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業の仕方、作り方や苦労について知る</li> <li>・漁業者の様子を知る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新巻づくりについて感想やお礼状としてまとめる</li> </ul>
12	調理実習 (家庭4)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の漁場から水揚げされた鮭を使った料理を作る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鮭の調理上の性質を知り、その性質を生かした調理法を知る</li> <li>・綾里と海の関係の近さを知る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・反省をまとめる</li> <li>・盛りつけを工夫し、試食する</li> </ul> (総合1)
1			まとめ	
2				
3				

②2学年「ふるさとを知り、見つけ、自己の将来・生き方を考えよう」

【実践のねらい・目標】

- ・豊かな三陸の海と深い関わりを持つ地域の素晴らしさを、体験活動等を通して学び、地域に生きる人々の生活や職業、郷土芸能について理解を深め、自らや地域の将来について考え、自己のより良い生き方について考えさせる。
- ・地域や水産業への理解を深めることができるように、郷土芸能活動、安全マップ確認、クリーンフェスティバル、水産教室、調

【主な連携機関と内容】

- ・野形地区公民館：郷土芸能
- ・B&G海洋センター  
：クリーンフェスティバル
- ・大船渡市消防組合：着衣水泳
- ・綾里漁業協同組合  
：新巻鮭づくり、調理実習

理実習などの体験的活動を取り入れる。自分たちの地域を深く見  
つめ、体験する活動を通して、主体的に学び、生き方を考える力を育てる。

○時数 4月～1月 55時間（総合的な学習の時間・学校行事47、美術1、社会2、家庭4、体育1）

○関連 美術、社会、家庭

月	体験的な活動	探求的な活動	表現的な活動
4	<b>郷土芸能</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・踊りの練習</li> <li>・お面作り</li> </ul> (総合・行事16)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・踊りの謂われをつかむ</li> <li>・どうして踊られるのか探る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動会で保護者、地域の方々に披露</li> <li>・文化祭でお面を展示</li> </ul>
5			
6	<b>地区活動</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地区のゴミ拾い</li> <li>・危険箇所確認</li> </ul> (総合1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゴミの量、地域の危険箇所を知る</li> <li>・津波浸水地域を確認</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全マップへの書き込み</li> </ul>
7			<b>海の絵</b> (美術1) <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の自然や産業、産物を絵やレターに描く</li> </ul>
8	<b>クラブエイサント</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海岸清掃活動を行う</li> <li>・着衣水泳を行う</li> </ul> (総合1、体育1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海岸環境の実態をつかむ</li> <li>・着衣の状態での泳ぎ方の大変さを知る</li> <li>・身近にある浮きに代用できるものを知る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感想、お礼状としてまとめる</li> </ul>
9	<b>地域題材の演劇</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の題材を扱いオリジナル脚本による演劇を行う</li> </ul> (総合22)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・題材や地域の様子を調べ、脚本に生かす</li> <li>・登場人物像や演技、音響や照明の工夫をする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・演出を工夫し、文化祭で発表する</li> </ul>
10		<b>海の学習</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・綾里と海の間わりを知る</li> </ul> (社会2)	
11	<b>水産教室</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・洋上から定置網の網おこしを見学する</li> </ul> (総合6)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定置網での漁の様子を知る</li> <li>・漁業の様子や現状・課題について知る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・洋上見学や講話について、感想やお礼状としてまとめる</li> </ul>



12	調理実習	・地域の漁場から水揚げされたサバを使った料理を作る	・サバの調理上の性質を知り、その性質を生かした調理法を知る ・綾里と海の関係の近さを知る	・反省をまとめる ・盛りつけを工夫し、試食する
1		(家庭4)	まとめ	(総合1)
2				
3				

### ③3学年「ふるさとを知り、見つけ、自己の将来・生き方を考えよう」

#### 【実践のねらい・目標】

・豊かな三陸の海と深い関わりを持つ地域の素晴らしさを、体験活動等を通して学び、地域に生きる人々の生活や職業、郷土芸能について理解を深め、自らや地域の将来について考え、自己のより良い生き方について考えさせる。

・地域への理解を深めることができるように、郷土芸能活動、安全マップ確認、復興ワークショップ、職場体験などの体験的活動を取り入れる。自分たちの地域を深く見つけ、体験する活動を通して、主体的に学び、生き方を考える力を育てる。

○時数 4月～1月 35時間（総合的な学習の時間・学校行事34、美術1）

○関連 美術

#### 【主な連携機関と内容】

- ・野形地区公民館：郷土芸能
- ・常葉大学：復興ワークショップ
- ・地域活性化総合研究所：職場体験

月	体験的な活動	探求的な活動	表現的な活動
4	郷土芸能 (総合・行事16)	・踊りの謂われをつかむ	・運動会で保護者、地域の方々に披露
5		・踊りの練習 ・お面作り	・どうして踊られるのか探る
6	地区活動 (総合1)	・ゴミの量、地域の危険箇所を知る ・津波浸水地域を確認	・安全マップへの書き込み
7	復興ワークショップ	・地域の方や地元を離れた方から綾里についてのインタビュー等で、綾里や生き方について調査する	(美術1) 海の絵 ・地域の自然や産業、産物を絵やレターに描く
8			・人生創造マップを使い、自分の人生をイメージする

9	(総合4)		
10			
11	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <b>職場体験</b> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">         ・希望の職場で職業やその仕事を体験する          (総合12)       </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">         ・仕事体験することで大変さや喜びを知る          ・直接職場の人から仕事について聞く       </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">         ・体験を感想やお礼状としてまとめる       </div>
12			
1		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <b>まとめ</b> </div>	(総合1)
2			
3			

## 6 活動の指導案例

### ①1年 単元名『新巻鮭づくり』 (総合的な学習の時間 4時間) (7 活動報告のNO.7)

#### (1) 単元設定理由

綾里中学校は全校生徒66名の小規模校である。学区内は震災で大きな被害を受け復興途上の中、生徒は、「綾中魂(一生懸命さ・思いやりの心・思慮分別できる能力)」のスローガンのもと、学習や諸活動に取り組んでいる。

綾里中学校では、地域の主産業である漁業に関わる活動を綾里漁業協同組合から協力をいただいている。水産に関する初歩的知識・技術についての学習を行い、水産業に対する理解と関心を高める。また、次代の漁業の担い手としての意識高揚を図ることを目的とする水産教室(新巻鮭づくり)を通して、漁業についての理解を深め、地域や海の利用、海と共に生きる生き方などについて考える力を育成できると考え、本単元を設定した。

#### (2) 単元目標

- ・地域の主産業である漁業について知り、地域の良さを産業を通して知る機会にする。
- ・漁業に関わる人々の生き方を知り、自身の生き方を考え表現する機会にする。
- ・地域の関係者とのふれあいを通して、地域との連携を深める。

#### (3) 単元の評価基準

- ・新巻鮭づくりに積極的に参加しているか。
- ・水産業や地域の特徴及び課題について理解することができたか。
- ・新巻鮭づくりを通して、漁業に関わる人々の生き方を知り、自分の生き方について考え表現することができたか。

#### (4) 単元の指導計画

時	学 習 活 動	指導上の留意点
0	1 事前指導 ・ねらい、内容、注意事項、準備物の確認	・各自にしっかり確認させる。

	合羽等の配布	・ねらいや内容の説明を通して活動への意欲づけにつなげる。
1	(1日目) 2 移動 ・綾里漁協荷捌き所へ出発 (徒歩で移動)  3 新巻鮭づくり (1) 開会行事 ①開会の言葉 ②あいさつ (2) 新巻鮭づくり体験 ・説明 ・体験 ①内臓やエラを取る ②洗う ③塩をすり込む ④名前を付ける ⑤タンクに入れる (3) 閉会行事 ①感想発表 ②お礼の言葉  4 移動 ・着替え等をして学校へ出発 ・学校到着	・必要な道具を準備して整列後、徒歩で向かう。 ・到着後、合羽等身支度をさせる。 ・漁協の方や指導者の方へのあいさつを忘れない。 ・漁協の方に進行をお願いしているので、指示に従う。 ・指導者の説明を作業の様子を見ながら聞く。 ・積極的に取り組むよう声かけをする。 ・分からないところを積極的に聞くよう声かけをする。 ・作業が終わったらまだの人に教え、手伝わせる。  ・代表が感想とお礼の言葉を述べる。  ・着替え後、徒歩で移動する。
3	(2日目) 5 移動 ・綾里漁協荷捌き所へ出発 (徒歩で移動)  6 新巻鮭づくり (1) 開会行事 ①開会の言葉 ②あいさつ (2) 新巻鮭づくり仕上げ作業体験 ・説明 ・体験 ①前回タンクに入れた自分の鮭を受け取る ②丁寧に水洗いをする ③袋に入れる (3) 閉会行事 ①あいさつ ②お礼の言葉 ③閉会の言葉	・必要な道具を準備して整列後、徒歩で向かう。 ・到着後合羽等身支度させる。 ・漁協の方や指導者の方へのあいさつを忘れない。  ・漁協の方に進行をお願いしているので、指示に従う。 ・指導者の説明を作業の様子を見ながら聞く。 ・積極的に取り組むよう声かけをする。 ・分からないところを積極的に聞くよう声かけをする。 ・作業が終わったらまだの人に教え、手伝わせる。  ・代表が感想とお礼の言葉を述べる。
4	7 移動 ・着替え等をして、新巻鮭を持って学校へ出発 ・学校到着  8 まとめ ・作業のまとめとお礼状を書く	・鮭と合羽の置き場所を指示する。  ・合羽回収について指示する。 ・個人毎に学習のまとめをさせる (学習プリントに記述させ、学んだ事を表現させる。また、学んだことや感想を加味してお礼状を書かせる。
外部連携 協力団体 綾里漁業協同組合 地域漁業関係者		

(1) 単元設定理由

綾里中学校は全校生徒66名の小規模校である。学区内は震災で大きな被害を受け復興途上の中、生徒は、「綾中魂（一生懸命さ・思いやりの心・思慮分別できる能力）」のスローガンのもと、学習や諸活動に取り組んでいる。

綾里中学校では、地域の主産業である漁業に関わる活動を綾里漁業協同組合から協力をいただいている。水産に関する初歩的知識・技術についての学習を行い、水産業に対する理解と関心を高める。また、次代の漁業の担い手としての意識高揚を図ることを目的とする水産教室（新巻鮭づくり）を通して、漁業についての理解を深め、地域や海の利用、海と共に生きる生き方などについて考える力を育成できると考え、本単元を設定した。

(2) 単元目標

- ・地域の主産業について知り、地域の良さを産業を通して知る機会にする。
- ・漁業に関わる人々の生き方を知り、自身の生き方を考え表現する機会にする。
- ・地域の関係者とのふれあいを通して、地域との連携を深める。

(3) 単元の評価基準

- ・水産教室に積極的に参加しているか。
- ・水産業や地域の特徴及び課題について理解することができたか。
- ・水産教室を通して、漁業に関わる人々の生き方を知り、自分の生き方について考え表現することができたか。

(4) 単元の指導計画

時	学 習 活 動	指導上の留意点
0	1 事前指導 ・ねらい、内容、注意事項、準備物の確認 合羽等の配布	・各自にしっかり確認させる。 ・ねらいや内容の説明を通して活動への意欲づけにつなげる。
1	2 移動 ・綾里漁協へ出発（徒歩で移動）	・朝の短学活終了後、必要な道具を準備して整列後、徒歩で向かう。 ・漁協の方へのあいさつを忘れない。
2	3 水産教室 (1) 開講式 ①開会の言葉 ②あいさつ ③日程説明 (2) 講話 ・水産業について ・綾里の漁業について ・課題について 等  (3) ロープワークの体験	・漁協の方に進行をお願いしているので、指示に従う。 ・気づいたことはメモ等を取りながら聞く。  ・ロープワークの際は、分からないところを積極的に聞くよう声かけをする。
	(4) 小石浜漁港へ移動（教育支援バス） ・漁協出発 小石浜漁港到着  (5) 洋上見学準備 ・注意事項 ・ライフジャケット着用	・バス乗車の注意点を指導する。  ・乗船場の注意事項やライフジャケットの着用を確認する。
3	(6) 洋上見学（定置網の網おしを見学） ・乗船 ・網おし見学	・船酔いの生徒への対応を心がける。
4	(7) 閉講式 ①あいさつ ②お礼の言葉 ③閉式の言葉	・代表の数名が感想を発表する。 ・代表がお礼の言葉を述べる。
	4 移動 ・小石浜漁港出発（教育活動支援バス） ・学校到着	

5	5  まとめ ・後片付け	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鮭と合羽の置き場所を指示する。</li> <li>・合羽回収について指示する。</li> <li>・個人毎に学習のまとめをさせる（学習プリントに記述させ、学んだ事を表現させる。</li> <li>・学んだことや感想を加味してお礼状を書かせる。</li> </ul>
6	・講話や体験のまとめとお礼状を書く	
外部連携 協力団体 綾里漁業協同組合 地域漁業関係者		

## 7 活動報告

### ・【NO.1】

- (1) 活動内容 「郷土芸能活動」
- (2) 学 年 1～3年
- (3) 実践日 4月26日～5月16日
- (4) 海洋教育に関するねらい 知る 利用する
- (5) 目 標 踊り伝えられてきた郷土芸能（「剣舞」「ささら」）の謂われや海との関わりを知り、伝承活動を意欲的に行う。

#### (6) 指導の流れ

##### ①ねらい

踊り伝えられてきた郷土芸能（「剣舞」「ささら」）の謂われや海との関わりを知り、表現を工夫し伝承活動を意欲的に行う。

##### ②留意事項

海との関わりについても意識させながら活動を進める。

##### ③学習上の特徴や工夫

これまで取り組んできた地域の芸能の伝承活動の意味をもう一度確認するところから始めた。踊りの謂われ（平氏の亡霊を鎮める、死者の霊を慰める）や海との関わり（海の安全、海難事故や津波犠牲者の霊慰める）を知ることで、ただ踊るのではなく、踊りの意味を理解しながら取り組む事につながった。普段の取組は先輩が1年生に教えるという形で取り組んだ。地域の指導者の協力を得て、夜間練習も行い、踊りの細かな点まで意識するようにした。

#### (7) 具体的な学習活動の記録

①オリエンテーションで踊りの謂われを学習し、取組の確認を行った。

②総合的な学習の時間で練習に取り組んだ。

- ・リーダーが活動内容を指示し、その時間の目当てを設定して取り組んだ。
- ・リーダーの指示のもと、小グループを作って先輩が1年生に踊りを教えた。
- ・夜間練習で、指導者から注意点を含めて指導を受けた。





(8) 指導のポイントや工夫

- ・オリエンテーションでパワーポイントを使って、剣舞やささらが踊りの意味や踊られている理由について、説明を加えることで、1年生に活動や踊りをイメージさせるとともに、2・3年生の踊りのレベルアップにつなげた。
- ・実際の踊りの練習取組は生徒の手で行わせ、リーダー育成につなげた。
- ・面作りは美術の学習と関連づけ、美術室で行った。
- ・夜間練習では、指導者との関わりを深め、地域との関わり方や踊りにかける思いを知る機会にした。

(9) 成果

- ・郷土芸能と海との関わりと地域の方々の思いや踊りの意味を知った上で、踊りの練習に取り組み、披露につなげられた。
- ・踊りの意味や謂われを知ることにより、取り組み姿勢や踊りの質が向上し、50周年の節目を飾ることができた。
- ・リーダーを中心とする集団での活動が向上した。

(10) 課題

- ・自分たちの地域の誇りとして、率先して行う活動に高めていきたい。
- ・地域の方々の協力の下に成り立っている部分が大いなので、日頃からの連携を大事にすることが必要である。
- ・夜練習の時間確保と部活動時間の兼ね合いの吟味が必要である。

・【NO.2】

(1) 活動内容 「地区奉仕活動・危険箇所確認」

(2) 学年 1～3年

(3) 実践日 6月5日

(4) 海洋教育に関するねらい 知る 守る

(5) 目標

- ・地域への奉仕活動を通して、海と共にある地域の現状について理解を深める。
- ・津波の恐さや災害時の避難について確認し、非常時に備える。

(6) 指導の流れ

①ねらい

地域での活動を通して、地域への理科を深める。危険箇所や浸水地域を知り、海との関わりを理

解する。

②留意事項

昨年度作成の安全マップを活用し、危険箇所や浸水地域確認の活動を進める。

③学習上の特徴や工夫

地区ごとに分かれて、学校への通学路を中心にゴミ拾いをしながら、地域の危険箇所や浸水地域を確認し、海の影響や自分たちの安全について考える機会にした。

(7) 具体的な学習活動の記録

①普段何気なく通学している地域のゴミ拾いを行い、ゴミが意外に多いことを知り、自分ではゴミを捨てないなど環境保全について考えた生徒もいた。

②危険箇所の確認ができ、安全な通学や非常について考える機会になった。



(8) 指導のポイントや工夫

- ・交通安全に留意して行う。
- ・危険なところに入らない。
- ・環境教育や奉仕（ボランティア）活動として、地区のリーダーを中心に組みこませる。

(9) 成果

- ・通学路の危険な所や浸水地域を実際に確認し、海と関わりや非常時の避難について考えることができた。
- ・地区リーダーを中心とする集団での活動が向上した。

(10) 課題

- ・自分たちの地域をきれいにすることを日頃から意識セル生徒増やして行くことが必要である。
- ・地区毎に人数のばらつきが大きく、距離も異なるので、作業経路や担当者配置の工夫が必要である。

・【NO.3】

(1) 活動内容 「クリーンフェスティバル・着衣水泳」

(2) 学 年 2年

(3) 実践日 8月31日

(4) 海洋教育に関するねらい 親しむ 守る 利用する

(5) 目 標 ・海岸の清掃活動を通して、地域の海岸の様子について理解を深めるとともに、海洋性リクリエーションの普及と環境保全に対する意識を高める。  
・水辺の安全教室を通して、生徒の自助意識を向上させる。

(6) 指導の流れ

①ねらい

海岸清掃活動を通して、地域への理解を深め、環境保全への意識を高める。ペットボトル遊泳、着衣遊泳を通して、海への親しみと自助意識を高める。

②留意事項

指導者の指導を受け、安全に留意して行う。

③学習上の特徴や工夫

B&G 海洋センター職員や水難学会の外部指導者の指導協力を得て、より深く意識付けする。

(7) 具体的な学習活動の記録

①綾里の港のゴミ拾いを行い、ゴミが意外に多いことを知り、環境保全について考えた生徒がいた。着衣状態での泳ぎの難しさとペットボトル等でも自分の身を守ることができることを体験し、海辺のリクリエーションや海の利用について考える機会になった。



### 【生徒の振り返りから】

生徒A 活動目標について ④ 3 2 1

感想 海の近くのゴミを拾って、いつものゴミ拾いよりせまい範囲だったけれども、あんなに多くのゴミがあることに驚きました。特に飲み物の缶が多くて、こんなに捨てているんだと思いました。地区で行うゴミ拾いとは違うようなゴミが多く出てきて、さまざまなゴミがあることが分かりました。最後に拾ったゴミを見て、漁港の近くの場所でもたくさんのゴミがあって、そのゴミを拾ってきれいにできて良かったと感じました。これからもゴミ拾いをするときは、しっかりとゴミを拾って地域をきれいにしていきたいです。

生徒B 活動目標について ④ 3 2 1

感想 今回のクリーンフェスティバルでは綾里漁港周辺のゴミ拾いを行いました。空き缶や燃えるゴミなどがたくさん落ちていました。班の人と協力して活動することができたと

思います。短い作業の中でしたが、結構ゴミが集まったので驚きました。今回は、一部の場所だけのゴミ拾いを行いました。でも、その他の場所でもゴミは色々なところに落ちているので、見つけたら積極的に拾いたいです。そして、綾里の地域をさらにきれいにしていきたいです。

生徒C 活動目標について ④ 3 2 1

感想 今回のクリーンフェスティバルは、綾里漁港周辺を拾いました。最初はあまりたいした物はそんなに落ちていないだろうと思っていました。しかし、実際に活動になったときに、回ってみると、空き缶や金属等のゴミや燃えるゴミ等が思ったより沢山落ちていました。今回は20分の活動でしたが、思いの外沢山集まりました。今回は綾里漁港周辺だけでしたが、こういった活動が出来て地域の方々への感謝の気持ちを示すことができたと思います。

生徒D 活動目標について ④ 3 2 1

感想 まず、漁港でゴミ拾いをしました。意外にゴミがたくさんありました。草の生えている場所もしっかり探して、とれるゴミは拾いました。たくさんのゴミを拾うことが出来たので良かったです。次に、B&Gのプールで着衣水泳をしました。浮いてみる練習をして段々上手に浮けるようになりました。腕と足を開いて力を抜いて浮くという動作を覚えました。今年は、沈んでから背浮きをする練習をしました。プールサイドから落ちてから背浮きをする練習をしました。ペットボトルのキャッチでは、焦ってつかまらないことを水難学会の人から教わりました。万が一、事故があったら、絶対に助けに行く



などせず、今日のことを生かして行動したいと思います。

生徒E 活動目標について ④ 3 2 1

感想 B&Gクリーンフェスティバルで、綾里漁港周辺のゴミ拾いをしました。今回は、燃えないゴミを集めました。拾っていて思ったことは、割と鉄くずが多かったことです。また、缶も多かったのも、捨てるような行為は絶対にしないと思いました。今日の20分だけでも、合計一袋分にもいきそうなく位のゴミがあったので、いけないと思いました。このクリーンフェスティバルを通して、分別をしてきちんとした場所に捨てるように、改めて思いました。

(8) 指導のポイントや工夫

- ・保健体育と総合的な学習時間を結びつけて時間設定をし、外部と連携することにより、普段の学校の指導とは異なる意識で取り組ませることができた。
- ・単に体験する受け身の姿勢ではなく、地域や海との関わりを考えるように指導を工夫した。

(9) 成果

- ・漁港付近のゴミの多さに気づき、環境保全の大切さや地域を守ることを意識させることができた。
- ・服を着て泳ぐことの難しさやペットボトルなど身近なものでも身を守ることを知ることができた。
- ・地域との関わり、海との関わりについて、改めて意識することができた。

(10) 課題

- ・外部の方々に支えられての活動なので、感謝の気持ちを育てていきたい。
- ・時間の都合上事後指導が十分ではなかったのも、まとめや振り返りを大事にして行きたい。

・【NO.4】

(1) 活動内容 「復興ワークショップ」

(2) 学 年 3年

(3) 実践日 7月5日、夏休み中、9月6日

(4) 海洋教育に関するねらい 知る 利用する

(5) 目標 ・地域の人や先輩の生き方を知り、自分の将来の生き方について考える機会にする。

(6) 指導の流れ

①ねらい

ふるさと綾里の復興・発展のための実践的行動力を持った人間の育成。

②学習上の特徴や工夫

大学教授や学生と共に活動する中で、自分や地域を見つめ、地域との関わりや自分の人生設計について考えさせる。人生設計ゲームの利用で楽しみながら考えられるようにする。

(7) 具体的な活動の記録

- ①人生デザインゲームを通じて、自分の人生デザインと綾里との関わり方について考え、話し合った。
- ②綾里出身者で帰省している人と地元に住む人からのインタビューを行った。
- ③先輩の人生デザインを知り、自分の人生デザインを見直し、また、震災への対応や海との関わりについて考えた。





### 【生徒の感想から】

・復興ワークショップをやって感じたことがあります。それは、自分が大人になってからどんなことをして、その経験などがどう生きていくのかなというところです。自分たちはだ中学生ですが、これからの人生、いろいろ学んで楽しんでいきたいと思います。人生ゲームをはじめ、自分のことを知るいい機会だと思ったので、とても楽しかったです。(男子)

・自分が大人になったとき、何をしたいかよく分かったので良かった。又、何か災害が起きたとき、どうすればいいのかも考えることができたので良かった。仕事を選ぶときも、大人の人の言うことを参考にできたので良かった。(女子)

・地元や地元以外のところでどう生活していくかをみんなで考えて、大事なことをたくさん見つけることができた。これからどうしようということも話し合うことができていい経験になりました。これからも地元について考えて行きたいなと思いました。(女子)

・将来について深く考えることができました。誰も一度は必ずここ綾里を離れなければなりません。その上で、Q1で出てきたような悩みに私たちもいずれ出会うときがあると思います。そんなとき、先輩達はどうか考え、行動を取ったのか。とても参考になりました。また、25歳の夏祭りの大切さで行う理由、これから仕事をする上で重要なこと等、たくさん学ぶことができました。綾里のために何ができるのか、これからも探し続けていきたいです。(女子)

・将来について前よりももっとちゃんと考えるようになりました。ゲーム形式で、楽しみながらも自分の人生について深く考えることができました。「こんな道もあるんだ」ということなどもあったので、将来、この経験を生かしていきたいと思いました。(男子)

・自分の進路や将来を決めるとても良い経験ができました。自分の意見を言うことができたし、綾里の先輩の武勇伝も聞いて、とても今後の人生の手助けになりました。やはり、敷かれたレールの上を走るだけではないかと思いました。今回のワークショップでいただいたレールは、僕にとっきな財産となりました。このレールをどんどん広げていって、自らの可能性を広げていきたいです。(男子)

・自分の人生は自分で決めることが大切だということを学びました。そのためには、今からしっかり勉強して知識をつけていくことが大事だということが分かりました。人生を楽しく生きるために、今の勉強を頑張ります。(女子)

・まず、母親と仕事の話ができるきっかけになったので良かったです。私は将来の夢が決まっておらず、どうすればいいか分かりませんでした。でも、今回人生ゲームやいろいろな方々のアンケートが、今の私にとって役立ちました。将来は、人に笑顔・元気・勇気などを届けられる仕事に就きたいと思います。また、今のクラスで生活できるのはあと半年しかなく、後10年後の祭りで、チームワークが大切ということなので、残り少しの学校生活を大切にしたいと思います。(女子)

・今のうちからたくさんの経験をしておいた方が、これから役に立つんだなと思いました。人生ゲームをした時は、自分の持っているカードを使い、綾里を良いものにすることをやって、この通りになるか分からないけど、自分で考えることが大切ということが分かりました。今まで考えることをあまりなかったけれど、仕事に就いたとき、親のことを考えて行かなければいけないんだなと思いました。(女子)

・みんながどんなことを考え、どうしようとしているか分かりました。人生の先輩が、どのようにして仕事をやっているかや、どうすればいいかを知ることができました。人間関係の大切さなど、たくさんのことを学ぶことができたので、これからも生かしていけるように頑張りたいです。人間関係も今のようにつながっていきたいです。(男子)

・将来のことについて考えるようになりました。人生ゲームでは、故郷に戻るか、それとも都会にいるかということをしました。今は、残るか戻るかを決めることはできないけれど、いつかその日が来ます。その日に向かって私は突き進みます。(男子)

・自分の将来と地域との関わりについて考えを深めることができました。実際に綾里で育った方々の経験を知ることが1番私のためになりました。将来どんな仕事についても地域に貢献できる資源はつけられるので、私もさまざまな資源を他の人のために使えるような大人になりたいです。また、大好きな綾里を活気づかせるためにも10年後のお祭りにも積極的に参加したいと思いました。(女子)

・これからの綾里や将来のことも考えさせられました。みんながった夢をもって参考になりました。あと地元の先輩達から聞いて人脈とかチームワークとかが大切ということが分かったし、先輩達の経験を聞いたので良かったです。(男子)

・進路や人生のことについて考えることができました。進路や将来をじっくり考え、自分に合ったところに進んでいきたいです。また、自分の力で進路に進むには、たくさんの知識や経験が必要だということが分かりました。(女子)

・班の人たちと学生の皆さんと話し合っているいろいろなことを考えました。将来のことを話して自分が大人になったときに必ず通らなければいけない道があることが分かりました。自分の意見を言ったり、他の班の意見を聞いたりしました。将来の夢を叶えるためにも、この復興ワークショップでやったことが役に立てばいいと思いました。(女子)

・自分の進路・将来について、より深く考えることができました。私たちもこれからは考えなくてはいけない時期なので、今回の経験を生かしていけるようにし、自分にとってより良い将来に進んでいけるようにしたいです。そのためにも、今できることをしっかりとしていこうと思いました。(女子)

・今まで自分の将来のことしか考えていなかったけれど、綾里のことも考えられたので良かったです。25歳の時には、またみんなが集まるので、夏祭りを楽しく盛り上げられるようにしたいです。将来は綾里にいないと思うけれど、綾里の人との人脈も大切にしていきたいです。また、困っている人がいたら自分から助けてあげられるようになりたいです。(女子)

・祭りのことや仕事のこと、先輩達の苦労したことなどが分かりました。自分の将来のことや仕事で気をつけることなども分かりました。復興ワークショップから学んだ協力し合うこと、健康に気をつけることなどを心がけてこれからも生活していきたいです。(男子)

・震災についてや自分の将来について考えることが出来ました。高校を卒業したら、先輩方はどのような仕事に就いてきたか、綾里には帰ってきたのかを知ることが出来ました。復興についても考えることが出来、とてもいい機会になりました。(女子)

・今まで人生についてじっくり考えたことはなかったし、そのことについてクラスメートと意見交換をしたこともなかったので、とても良い機会になりました。この経験をこれからの進路選択などに活かしていきたいと思います。(女子)

・1番楽しかったのは人生ゲームです。将来のこととかでやっていて、だんだんやっていくうちにおもしろくて、またやってみたいです。(女子)

(8) 指導のポイントや工夫

- ・指導に当たる教授や学生との事前打ち合わせを行い、生徒がスムーズに活動できるよう意識した。
- ・ゲームを取り入れての活動、学生を中心とする話し合い活動など、学習形態を工夫した。

(9) 成果

- ・中学生の段階で、人生について考えることは難しいことではあるが、先輩の人生設計や岐路での決断や資源について知ることで、自分の人生について考える機会になった。
- ・震災の影響や復興についての先輩の考えを知ることができた。

(10) 課題

- ・教授や学生にリードしてもらっての活動で、受け身になってしまいがちなので、意欲付けをしっかりと行う必要がある。
- ・夏休みのインタビュー活動についての取りませ方に指導と工夫が必要である。

・【NO.5】

(1) 活動内容 「海の絵」

(2) 学 年 1～3年の希望者

(3) 実践日 7月～8月(夏休みを含む)

(4) 海洋教育に関するねらい 海に親しむ 知る

(5) 目標 ・海の風景や海と共に生きる人々に注目し、それを表現する。

(6) 指導の流れ

①ねらい

ふるさと綾里の自然や海と共に生きる人々について知り、海と共に生きる人々の営みや海の自然を表現する。

②学習の特徴や工夫

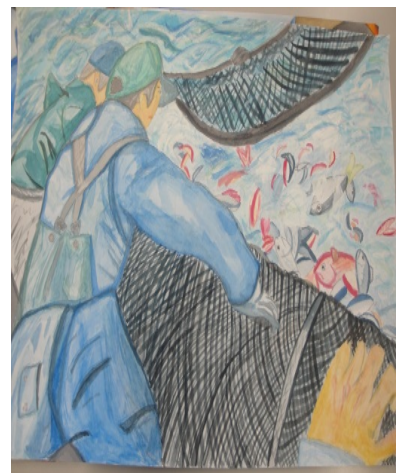
美術の時間や担当者から全校に呼びかけ、体験した水産教室や海に関する仕事、海の風景に注目させて夏休みの課題として取りませ、海の子絵画展に応募する。

(7) 具体的な学習活動の記録

①今年度は、前年度体験した水産教室や普段目に見ている海の様子を題材に、夏休みから8月後半にかけて取り組んだ。4名が海の子絵画展に出展し、岩手県で3名が、最優秀賞・優秀賞・入選と入賞した。最優秀賞の作品は全国の海の子絵画展に出品された。

【参考】

作品例



(8) 指導のポイントや工夫

- ・美術科担当や文化部担当と連携する形で実践した。

(9) 成果

- ・海との関わりや自分たちの体験について改めて考え、表現することができた。

(10) 課題

・生活が海と密接に関わっており、身近に存在する海についての意識させ、美術科と連携して、寄り多くの生徒が取り組めるよう工夫していく必要がある。

## ・【NO.6】

- (1) 活動内容 「水産教室」
- (2) 学 年 2年生
- (3) 実践日 11月2日(木)
- (4) 海洋教育に関するねらい 知る 利用する
- (5) 目標 ・漁業についての理解を深め、地域・海の利用・海と共に生きる生き方などについて考えることができる。
- (6) 指導の流れ
  - ①ねらい  
水産業に対する理解と関心を高めるとともに、次代の漁業の担い手としての意識の高揚を図る。
  - ②学習上の特徴や工夫  
綾里漁協の狭量を得て、講義等の座学だけでなく、実際に洋上で定置網の網おこしを見学する。また、漁業者にとって必要な技能の一つであるロープワークの体験を行う。
- (7) 具体的な学習活動の記録



### 【生徒のお礼状から】

・今日は、水産教室や洋上見学でご指導いただきありがとうございました。水産教室では、綾里で特に多く収穫している海産物や綾里の海の良さが詳しく分かりました。特に、ワカメの養殖は日本一で、それほど綾里は海に恵まれているとよく分かりました。また、ホタテのブランド化に成功するなど、「恋し浜」は綾里の誇りだと感じました。2011年に震災があったのにも関わらず、消費者のためにみんな漁業を続けていたということがとても印象に残りました。洋上見学では今までよく分からなかった定置網おこしの様子がよく分かりました。慣れた手つきで定置網をおこしていて、力強さが伝わってきました。始めは魚があまりなくて、今日は少ないのかと思っていましたが、すぐに箱からこぼれるほどの生きのいい大漁の魚が獲れてすごいなと思いました。声をかけ合って網おこしをする姿は、とてもかっこいいなと思いました。今日は普段はできない経験をできて、とても勉強になりました。これからも頑張ってください。ありがとうございました。

・今日の水産教室では、綾里漁業についての講話、洋上見学、縄結びの実習など大変お世話になりました。組合長さんの講話を聞いて定置網のことや漁業者についてのことが詳しく知ることができたので良かったです。また、水揚げされる魚の数量を見て、毎年全く違うことに驚きました。船に乗って洋上見学をすると定置網を起こす作業を見ました。実際に起こすところを見て、いろいろな機械を使ったり大勢の人たちで網を引くなど改めて大変な作業なんだなあと感じました。網に入っている魚はとて多く、種類がたくさんありびっくりしました。最後に食べた刺身は新鮮でとても美味しかったです。今回の水産教室では漁業についてたくさんのお話を学べたので良かったです。本当にありがとうございました。

### (8) 指導のポイントや工夫

・漁業の置かれている現状や綾里の復興にも触れ、地域との関わりを意識させた。

### (9) 成果

・終了後のまとめから、漁業の大変さ、漁業で働く人々のすごさ、漁業機械の進歩、獲れたての魚のおいしさなど、今まで分からなかったことを実感として捉えることができた。

(10) 課題

・海との関わりや漁業について考えることができたが、これからの自分の生き方とどうからませっていくかの工夫が必要である。

・【NO.7】

(1) 活動内容 「新巻鮭づくり」

(2) 学 年 1年生

(3) 実践日 11月7日(火)、13日(月)

(4) 海洋教育に関するねらい 知る 利用する

(5) 目標 ・漁業についての理解を深め、地域や海の利用・海と共に生きる生き方などについて考えることができる。

(6) 指導の流れ

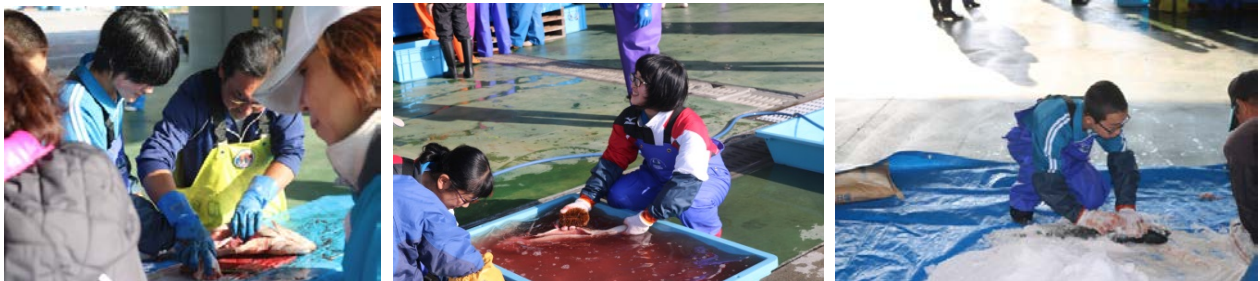
①ねらい

水産業に対する理解と関心を高めるとともに、次代の漁業の担い手としての意識の高揚を図る。

②学習上の特徴や工夫

綾里漁協の協力を得て、実際に鮭の新巻づくりに挑戦することで、漁業に対する理解を深める。

(7) 具体的な学習活動の記録



- ・綾里の定置網からその日水揚げされた鮭を人数分提供いただき、漁業者から指導を受けておこなった。
- ・11月7日の作業工程は、①エラを取りのぞき、②腹を割いて内臓をしっかりと取り出し、③容器にためた海水で洗い、④塩を体の表面だけでなく、内臓や目にもすり込み、⑤タンクに入れて数日置く。
- ・13日は、⑥タンクから取り出し、⑦水で塩を洗い流し、⑧各自の袋に入れる作業を行った。

【生徒のお礼状から】

・この度は、私たちに新巻鮭の作り方を教えてくださいありがとうございました。私が体験から学んだことは、お腹を包丁で切るときの切り方です。私は最初縦に包丁を入れて切っていてなかなか進みませんでした。でも、漁師さんがもう少し包丁を傾けてとアドバイスをして下さったおかげで、すーっと切ることができました。私は、鮭の部分によって包丁の入れ方が違うことを学びました。それから、切り終わって鮭を洗った後、塩を付ける作業がありました。私はどうして塩を付けるのか分かりませんでした。後で友達から聞いて、腐りにくくするためだと分かりました。鮭を切って終わりではなく、その後の鮭の状態を考えてすることが大切だと気づき、そこまで考える漁師さんはすごいと思いました。鮭は家で干して家族で美味しく食べたいと思います。大変な作業をテキパキこなす皆さんはとてもすごいです。本当に丁寧に教えて下さりありがとうございました。

・この度は、2回にわたり新巻鮭づくりに協力していただきありがとうございました。今回の新巻づくりで初めて知ったことがたくさんありました。例えば、魚をさばき、エラや内臓などをとってから洗うことや塩のすり込み方などです。塩を鮭の身の内側まですり込んだり、目をつぶすことも知りました。今回作った新巻鮭は家で10日ほど干しておいしく食べたいと思います。鮭の命の有り難さとここまでの工程の大変さを感じながら味わって食べたいです。そして、今回の新巻鮭づくりで鮭だけでなく、自分たちがこれまで食べてきた命のありがたさも改めて考えることができて良かったです。これからはさらに、「命をいただいているのだ」という思いを持ちながら食べていきたいです。今回の新巻鮭は漁協の方々のご協力のおかげですることができました。本来何千円もする鮭を25人分も用意していただいたことと、お忙しい中ご指導下さったことにとっても感謝しております。これから寒くなってきた大変だと思いますが、お身体に気をつけてお仕事なさってください。

(8) 指導のポイントや工夫

- ・実際に新巻鮭づくりを行うことで、漁業への理解を深めさせるとともに、地域の漁業者から直接指導を受けることを通して、地域との関わりを意識させることを意図した。

(9) 成果

- ・終了後のまとめから、漁業の大変さ、漁業で働く人々のすごさなど、今まであまり意識しなかったことや分からなかったことを実感として捉えることができた。
- ・命との関わりまで考えを広げた生徒がいた。

(10) 課題

- ・海との関わりが強さを考えることができたが、これからの自分の生き方とどうからませていくかの工夫が必要である。

・【NO.8】

(1) 活動内容 「地元で水揚げされた魚を使った調理実習」

(2) 学 年 1年生

(3) 実践日 11月20日(火)

(4) 海洋教育に関するねらい 知る 利用する

- (5) 目標
- ・地域で水揚げされた魚の利用を通して、海の利用や海の恵みなどについて考えることができる。
  - ・身近な魚の調理を通して、魚料理に親しむ。

(6) 指導の流れ

①ねらい

- ・魚の調理上の性質を知り、その性質を生かした調理ができる。
- ・魚の適切な取扱いができ、安全と衛生に留意しながら、協力して能率良くできる。

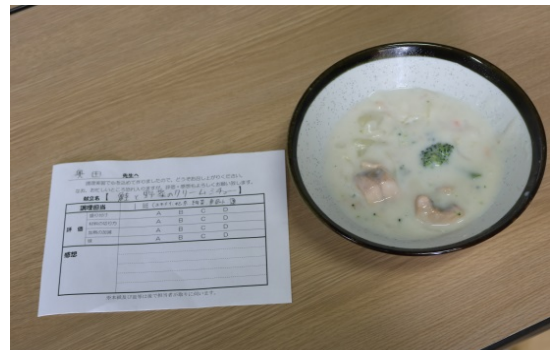
②留意事項

衛生面や安全面に留意して作業を行わせる。

②学習上の特徴や工夫

綾里漁協の協力を得て、実際に鮭の新巻づくりに挑戦することで、漁業に対する理解を深める。

(7) 具体的な学習活動の記録



(8) 指導のポイントや工夫

- ・家庭科の授業で先日行った新巻鮭づくりと同じ材料である鮭を使うことで、海の恵みや漁業への理解を深めさせるとともに、実際に調理することを通して魚が身近な存在であることを再確認させた。

(9) 成果

- ・新鮮な魚を使うことで、魚のおいしさや調理への利用など、今まで分からなかったことを実感して捉えることができた。また、一度焼いてからシチューに入れて魚の臭みを消すことなど、魚を調理する上での留意点を知ることができた。
- ・協力して時間内に調理や片付けができた。

(10) 課題

- ・新鮮で美味しい魚介類が利用できる環境にあることの有り難さを意識させながら活動に取り組んでいくことを大事にしていくことが必要である。

## 8 本活動のまとめ

(1) 成果

- ・本活動に取り組むにあたり、これまでバラバラに実施してきた各取り組みや活動を、海洋教育という一つの軸を持って系統的に位置づけることができた。それにより、指導のねらいやつながりがはっきりし、活動が充実したものとなった。
- ・海との関わりや地域様子、地域に暮らす人々について知る機会となり、自分の将来や地域について考える様子が見られ、また、地域に支えられていることを実感させることができた。
- ・様々な体験や考える場を通して、成長した様子が感じられた。
- ・海からの恵みや海との関わりについて知り、今まで以上に意識することができた。
- ・活動や体験を通し、自分の考えを持ち、自分の行動の在り方について考える様子が見られた。
- ・礼状やまとめに感謝の気持ちや学んだことが自分の言葉で著されて、表現力や発信する力が伸びた。

(2) 課題

- ・事前指導の時間が十分に確保することができず、指導者側から与える形での活動になってしまったことがあり、課題意識や活動後の個々の情報発信については十分な成果とは言えない部分があった。
- ・活動内容や在り方について、今年度の反省を踏まえ、更に改善していくことが必要である。



## 剣舞・ささら



## 剣舞の由来

- 今から800年以上前、源氏と平氏の戦いで敗れた平家一族の無念や執念が亡霊となり源氏の安眠を妨げ苦しめた。この平家の亡霊が仏僧の法力に依り、次々と浄仏されていく様を舞踊化したのが、この剣舞である。

- 壇ノ浦の戦い・・・栄華を誇った平氏が源氏に敗れた戦い（壇ノ浦で滅亡したことで海との関わりがあるといえる）

- 藩政時代、野形に日頃市板用から奉公に来ていた人が、部落の方々に教えたのが事の始まり。
- 一時途絶えていたのを、野形共楽会で継承することにし、会員有志に依って復活し、昭和十一年綾里村全域において踊られ、先祖の霊を慰め現在に至っている。

- 先祖の霊を慰める・・・綾里地区は昔から海との関わりが深く、津波や船の事故により多くの方が亡くなっている。
- 綾里地区の祭りでも踊られる・・・海の安全・豊漁を願う

## 綾中の伝統

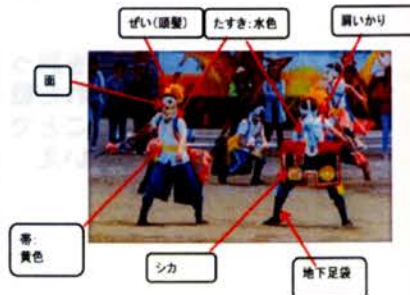
- 綾里中学校運動会での披露・・・51年目
- 3年生が中心となり、2年生と協力して1年生に踊りを伝える・・・綾中の伝統

## 練習

- ・3年生を中心に行う練習
- ・野形地区指導者による夜練（夜6時半～8時）
- ・「真剣舞」と「山の神」を踊る予定



## 衣装・道具



## ささら(権現様)の由来

- ・古くから伝わる伝統芸能。
- ・権現様はもともとは、神楽であったともいわれている。今では、三陸ならではの怒濤の海を感じさせる勇壮な郷土芸能として集落毎に囃子や舞が振り付けられている。

- ・常に先に立ち、獅子頭をあやし誘導をしつつ頭の進む場を清める役目を持つのが「ささら」。
- ・新年早々各家をめぐり今年の安全、豊漁・豊作を祈願している。(悪魔祓い)

## 綾中の伝統

- 綾里中学校運動会での披露・・・41年目
- 3年生が中心となり、2年生と協力して1年生に踊りを伝える・・・綾中の伝統

## 練習

- 踊りは、3年生を中心に、1年生に教える。
- 笛は、白浜地区の指導者から指導をいただく。



## 衣装・道具



えびし  
過去に作成し  
たものを使用

帯(水色)

たすき(黄色)

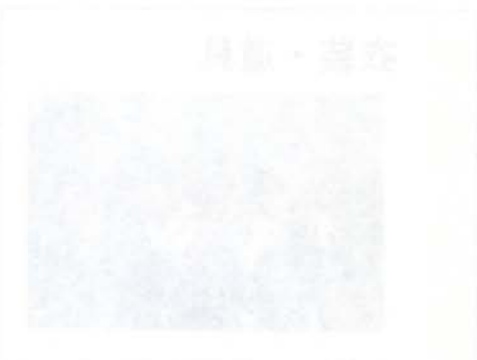
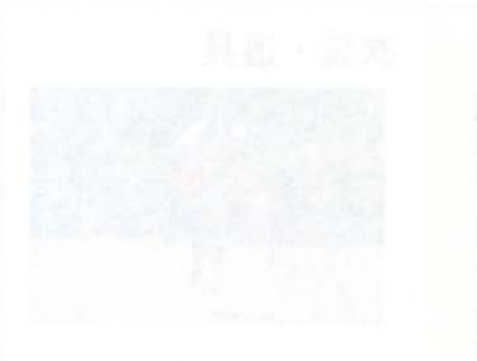
## 衣装・道具



- 練習にあたって**
- 限られた時間での練習
  - 綾中の伝統：3年生のリード、1・2年生の動きが大事
  - 舞いの意味を理解しての表現
  - 地域への披露
  - 指導者への感謝

**練習の中身**

綾中が全県大会で甲斐県舞踊・  
目撃した・・・  
S...  
...  
...  
...  
...  
...



教科の概要

# 海との関わりについて知ろう①

綾里中学校  
海洋教育パイオニアスクールプログラム

## 社会科での海に関わる内容

- 世界各地の人々の生活と環境(イヌイットの暮らし、サンゴ礁と観光開発)
- 東南アジア:エビの養殖
- 西アジア:海水を淡水に変える
- ヨーロッパ:北大西洋海流の影響、地中海沿岸へのバカンス)
- オセアニア:火山島とサンゴ礁、観光

## 社会科での海に関わる内容

- 日本の姿:日本の領海
- 日本山地と海岸:海岸線、日本を取り囲む海
- 日本の気候:モンスーン、台風
- 自然災害:津波、高潮
- 日本の資源と産業:漁業の特色と課題

## 社会科での海に関わる内容

- 三大洋とは・・・

H: 太平洋

I: 大西洋

G: インド洋



## 三大洋

- 1番広いのは・・・表面積の32.6%
- (太平洋)
- 次は・・・17.0%
- (大西洋)
- 次は・・・14.4%
- (インド洋)

## 海洋の特色

- 海洋の面積は・・・地球の表面積の約70%と広い
- 暖まりにくく、冷めにくい
- 暖かい流れ  
暖流
- 日本付近では  
日本海流(黒潮)

**海洋の特色**

- 冷たい流れ  
寒流
- 日本付近では・・・  
千島海流(親潮)
- 三陸沖では・・・  
潮目・・・好漁場

**海洋の特色**

- 地球の( )に大きな影響  
気候
- 西ヨーロッパ・・・(高)緯度のわりに温暖  
(北大西洋)海流の影響
- 災害をもたらす  
(津波) (高潮)

**海洋の特色**

- 地球の( )に大きな影響  
気候
- 西ヨーロッパ・・・(高)緯度のわりに温暖  
(北大西洋)海流の影響
- 災害をもたらす  
(津波) (高潮)

**海洋の特色**

- 地球の( )に大きな影響  
気候
- 西ヨーロッパ・・・(高)緯度のわりに温暖  
(北大西洋)海流の影響
- 災害をもたらす  
(津波) (高潮)

**海洋の特色**

- 地球の( )に大きな影響  
気候
- 西ヨーロッパ・・・(高)緯度のわりに温暖  
(北大西洋)海流の影響
- 災害をもたらす  
(津波) (高潮)

**海洋の特色**

- 地球の( )に大きな影響  
気候
- 西ヨーロッパ・・・(高)緯度のわりに温暖  
(北大西洋)海流の影響
- 災害をもたらす  
(津波) (高潮)

## 海との関わりについて知ろう②

綾里中学校  
海洋教育バイオニアスクールプログラム

### 綾里と海との関わり①

- 綾里の有名な貝塚は？

宮野貝塚

アサリ、イガイ、マガキ、ツメタガイ、  
ウニ、サメ、マグロ、サバ、タイ、  
ブリ、イワシ

(縄文時代前期)

### 綾里と海との関わり①

- 人骨…外耳道骨腫  
潜水して漁労に従事
- 綾里の地名由来…  
「綾織り」が「リョウリ」に変化  
アイヌ語の「リョウリ」…  
「魚の豊かなところ」という説も

### 綾里と海との関わり①

- 綾里の五年祭…  
海と共に生きる人々が安全を祈願し、  
海の恵みへの感謝を表すため

## 海との関わりについて知ろう③

綾里中学校  
海洋教育バイオニアスクールプログラム

### 綾里と海との関わり②

- 綾里を襲った主な津波
- 1611年(慶長16年) M8. 1
- 1677年(延宝5年) M8. 0
- 1806年(明治29年) M8. 5
- (明治三陸地震津波)
- 1933年(昭和8年) M8. 1
- (昭和三陸地震津波)
- 1960年(昭和35年) チリ地震津波

### 綾里と海との関わり②

- 明治三陸地震津波(1806年)  
死者行方不明者1万8158人(岩手県)  
津波の高さ・・・38. 2m(綾里村)
- 昭和三陸地震津波(1933年)  
死者行方不明者2713人(岩手県)  
181人(綾里村)  
津波の高さ・・・23～29m(綾里村)



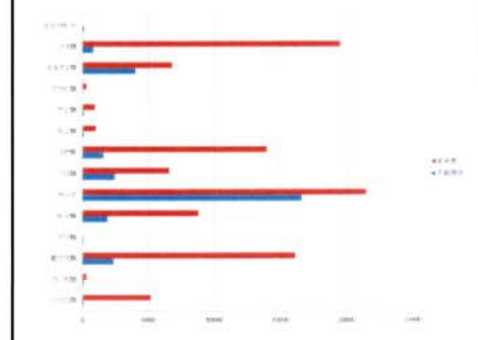
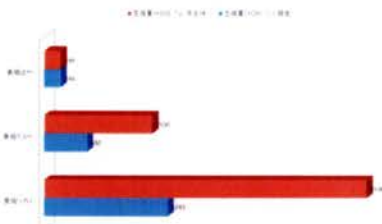
## 海との関わりについて知ろう④

綾里中学校  
海洋教育パイオニアスクールプログラム

## 綾里と海との関わり③



## 綾里と海との関わり③



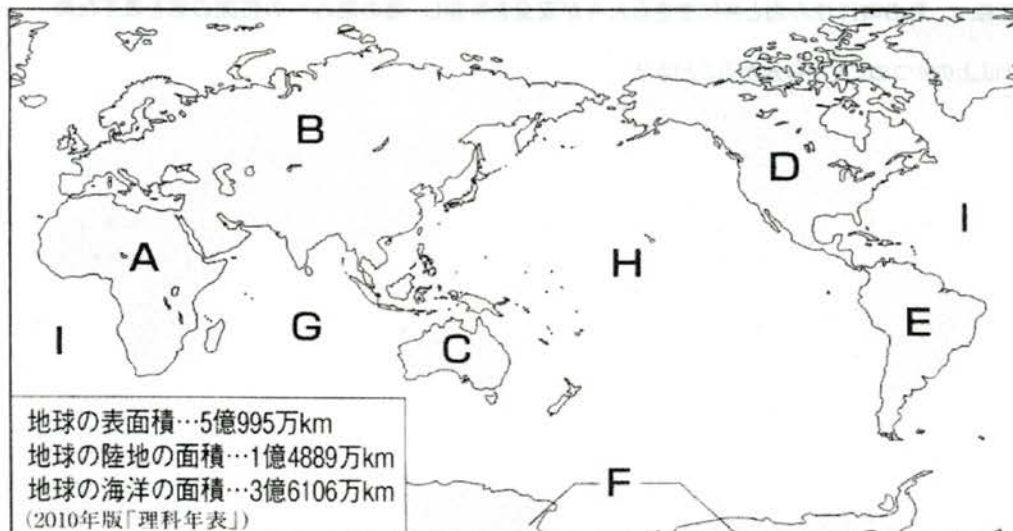
## 海洋教育パイオニアスクールプログラム

### ☆海との関わりについて知ろう

#### ○社会科で取り上げる海に関わる内容

- ・地球の姿…六大陸と三大洋
- ・世界各地の人々の生活と環境…人々の暮らし(イヌイットの食事、さんご礁と観光開発)
- ・世界の諸地域…東南アジア(日本への輸出:エビの養殖)、西アジア(海水を淡水にかえる)、ヨーロッパ(北大西洋海流の影響、地中海沿岸へのバカンス)、オセアニア(火山島とさんご礁、観光、リゾート地)
- ・日本の諸地域…日本の姿(島国、日本の領域領土)
- ・世界から見た日本の姿…日本の山地と海岸(変化に富んだ海岸線、日本を取り囲む海)、日本の気候(モンスーン、台風、さんご礁)、自然災害(津波、高潮)
- ・世界から見た日本の資源・エネルギーと産業…(漁業の特色と課題)
- ・日本の諸地域…九州地方(さんご礁、リゾート)、台風、豪雨と開発による赤土被害、水俣病)、中国四国地方(気候、瀬戸内の塩、漁業)、近畿地方(海の埋め立て)、関東地方(小笠原)、東北地方(やませ、三陸沖の潮目、養殖)、北海道地方(海の恵み)

#### 1. 世界の海の姿をもう一度確認しよう



#### ・世界の三大洋とよばれるのは？

地図中 I の( )洋、H の( )洋、G の( )洋

・そのうち1番広いのは地球の表面積の32.6%を占める( )洋、次が17.0%を占める( )洋、14.4%を占める( )洋となっている。

#### ・海洋の特色は

- ・海洋の面積は地球の表面積の( )%と( )い。
- ・海洋には暖まりにくく、冷めにくいという特徴がある。
- ・海洋には流れがあり、暖かい流れを( )と呼び、日本付近では( )などがある。冷たい流れを( )と呼び、日本付近では( )などがある。三陸沖は暖かい流れと冷たい流れがぶつかる( )と呼ばれ、好漁場となっている。
- ・地球の( )に大きな影響を与えている。  
 例:西ヨーロッパは( )緯度の割りに暖かい。←大西洋を流れる暖流の( )海流の上であたためられた偏西風が西ヨーロッパに吹いているため。
- ・多くの動植物を育み、海の恵みをもたらしてくれる。  
 → ( )

・災害ももたらす→ ( ) ( ) など

まとめ 海洋は( )

海洋教育パイオニアスクールプログラム

☆海との関わりについて知ろう

2. 綾里の海との関わりを見てみよう①(歴史的な関わり)

・綾里の有名な貝塚・・・

**右のような出土品があります**

・また、三陸町史にはこの貝塚で7名の人骨も発見され『三陸町出土の人骨を調査したところ、その半数に「外耳道骨腫」が見られる。「外耳道骨腫」は食糧採集のために海のもぐる者に多く発生する疾患である。』とあり、潜水して漁労に従事していたことが分かる。

- ・綾里という地名の由来は、「綾織り姫」伝説の「綾織り」が「リョウリ」に変化したものだといわれている。また、「リョウリ」はアイヌ語で「魚の豊かなところ」という意味だという説もある。
- ・綾里の五年祭は、海の町に住み海と共に生きる人々が安全を祈願し、海の恵みへの感謝の意を表すために開催

○まとめ・・・以上の4つのことから分かることは？

二枚貝:アサリ、イガイ、ムラサキインコ、マガキ  
腹足綱:ツメタガイ、レイシガイ、イボニシ、チヂミボ  
ラ、  
アキクガイ、クボガイ、タマキビ、ムギガイ、  
ウニ綱:エゾバフンウニ、キタムラサキウニ、  
エゾムラサキウニ  
甲殻類:フジツボ科の一種  
軟骨魚綱:ツノザメ  
硬骨魚綱:マグロ属、サバ属、タイ科、アイナメ科、  
フサゴカサゴ科、アジ科、ブリ属、マイワシ、  
ウミタナゴ科、エゾイソアイナメ、カワハギ  
(縄文時代前期)

### 3. 綾里と海との関わりを見てみよう②(綾里を襲った津波)

明治三陸地震津波(小さな揺れで巨大津波)

三陸という呼び名は、旧国名の陸前、陸中、陸奥の総称。1896年(明治29年)6月15日は、日清戦争に従軍して凱旋した兵士たちを迎え、三陸の村々で祝賀式典が開かれ、兵士を迎えた家では宴もたけなわでした。

またこの日は旧暦の端午の節句でもありました。男の子がいる家では親族が集まって祝い膳を囲んでいる最中の午後7時32分、小さな揺れを感じた。

その日も、朝に弱い地震があり、何回も続いた後にこの地震が発生して、それは5分間ほど揺れた。そして、その10分ほど後にもまた揺れました。が、春以来の地震の中でも小さいほうであったので誰もあまり気にもしていなかったし、震害もありませんでした。しかし、その地震は三陸沖約150Kmを震源とするマグニチュード8.5という巨大地震だったのです。

ところがこの地震発生後35分たった午後8時7分に津波の第一波が三陸沿岸に襲来、続いてその8分後の午後8時15分に津波の第二波が襲いました。第一波で残った家もすべてさらって流し去ったのです。その時間はちょうど満潮と重なっていたため、一段と波高を高くし、リアス式海岸が波のエネルギーをさらに高めて襲来するという悪条件が重なりました。

最大の津波は綾里村で実に38.2mという想像を絶する高さでした。普通津波での死者は溺死と思われませんが、はじめに掲げた綾里地区の「明治三陸大津波伝承碑」の碑文には「綾里村の惨状」「綾里村の如きは、死者は頭脳を砕き、或いは手を抜き、足を折り名状すべからず」と書かれているように、犠牲者は打撲が多く、原型を止めないほど遺体が損傷する悲惨なものです。地震の揺れによる被害はまったくないにもかかわらず、これほどの津波が襲うと誰も考えていなかったのである。また、この地震でハワイにも2.4m~9.1mの津波をもたらせ多くの被害を出しました。

三陸地方を襲い被害をもたらせた過去の地震を調べてみると

- 1、1611年(慶長16年)M8.1
- 2、1677年(延宝5年)M8.0
- 3、1896年(明治29年)M8.5
- 4、1933年(昭和8年)M8.1
- 5、1960年(昭和35年)チリ地震
- 6、1978年(昭和53年)M7.4

このように、三陸地方にはある周期で地震が発生し、津波が襲来している形跡があります。そして、発生した地震及び津波すべてで大きな災害に発展しています。

#### 昭和三陸地震津波

1933年(昭和8年)3月3日午前2時30分、岩手県沖250Kmの海底を震源とするM8.1の巨大地震が発生し、北海道から近畿地方までの広い範囲で揺れを感じました。宮古、仙台、石巻、福島で震度5を記録しました。この地震は日本海溝直下の太平洋プレート内で発生した正断層型の巨大地震である。地震による被害は壁に亀裂が入った程度であったことと、釜石町で火災が発生して249戸が焼失したという被害が震害でした。

しかし、地震発生から30分~1時間経過した頃、北海道、三陸沿岸に大津波が襲来し、1896年の明治三陸地震津波以来の甚大な被害をもたらすこととなります。大津波は6~7分から30分ほどの周期で数回から10数回にわたって押し寄せ、各地で大きな被害をだした。流失船舶7,303隻、流失家屋4,972戸、死者行方不明者3,064人という大惨事に発展しました。特に死者の内、半数以上の1,542人が行方不明という記録が残っています。これは引き波の激しさを物語っています。県別の死者行方不明者は岩手県2,713人、宮城県308人、青森県30人、北海道13人と、犠牲者は岩手県に集中している。中でも三陸地方の三つの村は壊滅的な被害を受けています。

- 1、田老村/972人
- 2、唐丹村/359人
- 3、綾里村/181人

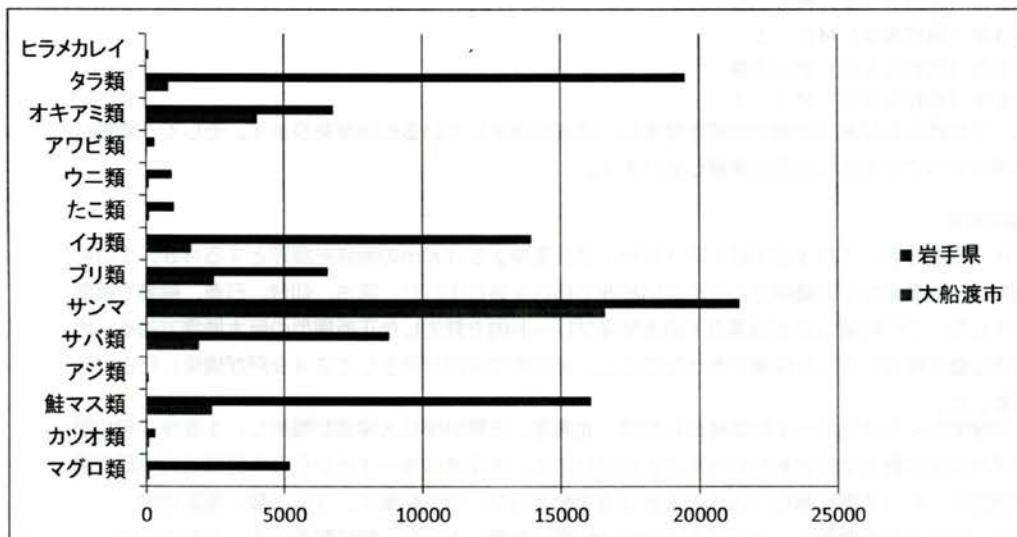
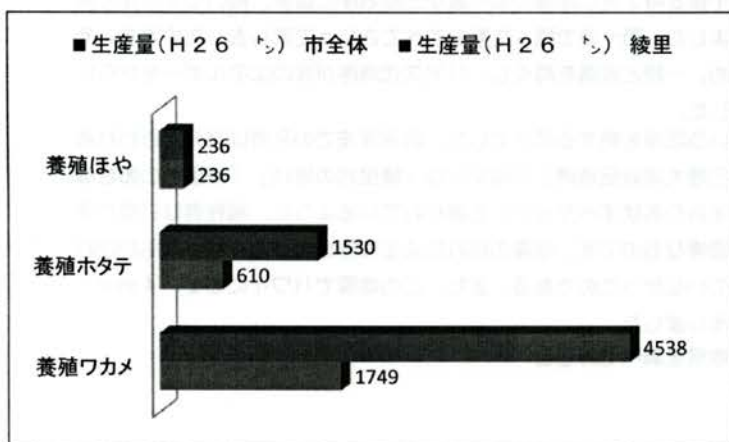
津波は23~29m(綾里)もの高さで襲ったといわれている。

### 3. 綾里の海との関わり③(産業)

現在の綾里の海について考えてみよう。

岩手県南部に位置する本市の沿岸域は、起伏に富んだリアス海岸で、北から吉浜湾、越喜来湾、綾里湾、大船渡湾、門之浜湾と5つの港が連続しており、天然資源に恵まれた好漁場となっています。また、沖合は親潮と黒潮がぶつかる世界有数の三陸漁場に面しています。浅海・近海においては、アワビやウニなどの採介藻漁業、ワカメやカキ、ホタテ貝などの養殖漁業、周辺海域や沖合では定置網漁業や漁船漁業などが幅広く営まれてきた。

三陸沖では、春には黒潮と親潮の境界が北上し始め、サバ・アジ・イワシが来遊します。夏には黒潮の北上と津軽海峡から流れ込む暖流の影響を受け、カツオやマグロの群れが回遊してきます。秋には親潮と黒潮の境界が南下し、暖流系の回遊魚が南に向かいはじめ、戻りカツオやサンマの漁期を迎え、冬には親潮が勢力を強め、サケ、マダラなどの漁期となります。



漁業について分かることは？



SPF 笹川平和財団

◎PR 海洋政策研究所